

■内容物

プレイヤーカード……4枚



暫定順位カード……4枚



予算案ボード……1枚



市民の声(支持者)カード……48枚



公約カード……8枚



予算トークン(赤・青・黄・緑)……各6個



予算減収トークン(白)……8個



プレイヤーチップ(赤・青・黄・緑)……各4枚



得点カウンター(赤・青・黄・緑)……計4個



バッグ……1つ

■ストーリー

あなたは新人の市議会議員です。任期の一年目をこなして政務にも少しずつ慣れてきました。
三年後には改選があります。再度当選するため、あなたは市民の声を聞いて要望を探り、予算質疑を通じて予算案を調整しなければなりません。
市民の要望を叶えることで支持者を獲得し、支持ポイントを稼いで、三年後のトップ当選を狙いましょう。3ラウンド終了後にもっとも支持ポイントの多いプレイヤーが勝利します。

■ゲームの流れ

準備→(アクション→評価→年度末実績チェック)×3→当選/落選→公約チェック

■準備

4枚のプレイヤーカードから各プレイヤーが自由にカードを選択します。
カードの色に応じたプレイヤーチップを4枚ずつ所持します。また、色に応じた得点カウンターをプレイヤーカードの0のところに配置します。①
じゃんけんで1～4位を決め、1～4位の暫定順位カードを各プレイヤーに配ります。②(以下は4人プレイを前提とした説明です。3人プレイの場合は4位の暫定順位カードを使用しません)

市民の声カードを点数ごとに分けて、裏向きにしてよく混ぜて山を3つ作ります。③
市民の声の1点カード山から、それぞれの暫定順位に応じた初期カードを表向きにして配ります。これは各議員の初期の「支持者」です(「市民の声」カードは入手することで「支持者」カードとなります)。④
公約カード8枚を裏向きでシャッフルし、1枚ずつそれぞれのプレイヤーに裏向きで配ります。入手した公約カードは自分だけ確認できます⑤。余った公約カードは場に裏向きのまま並べておきます。⑥
予算案ボードを机に置きます。⑦
予算減収トークン(白)から4つだけ取り出し、机の端に置きます。これは2ラウンド目以降に使用する可能性があります。⑧

(以下、毎ラウンド開始時の準備です)
1点カード山から4枚、2点カード山から2枚、3点カード山から2枚、裏向きのまま場に並べます。⑨
予算案ボードには「がっこう(赤)」「けいさつ(青)」「びょういん(黄)」「まち(緑)」「げんぜい(銀)」の5つのカテゴリーがありますが、「げんぜい」を除く、それぞれのカテゴリーに対応する色の予算トークンを2つずつ配置します。
残りの予算トークンと予算減収トークン(白)をバッグの中に入れます。

暫定順位1位プレイヤーがバッグの中から10個のトークンをランダムで取り出します。
10個の予算トークンのうち、各色のトークンは予算案ボードの対応するカテゴリーに追加で配置します。これが市長から提出された予算案となります。⑩
白色の予算減収トークンはハズレです。それはどこにも配置しません(その年の税収が少なかったことを意味します)。ボードの隣にでも置いておいて下さい。⑪

各プレイヤーは暫定順位カードの下の半円の場所にそれぞれのプレイヤーチップを配置して下さい。手番ごとに、これを1番から順に使用していきます。⑫



(準備が完了した図)

■アクション

暫定順位の低いプレイヤー(4位)から順に手番が回ってきます。手番時に、暫定順位カードの左にあるアクションを1つずつ行っていきます。(「4位ロビイング→3位ロビイング→2位ロビイング→1位議会質疑→4位ロビイング→3位ロビイング→2位議会質疑……」)

暫定順位により、各プレイヤーのアクションが変わります。暫定1位のプレイヤーは「議会質疑」を3回行えますが、「ロビイングを受け付ける」は一切行えません。暫定4位のプレイヤーは「ロビイングを受け付ける」を3回行えますが、「議会質疑」はたったの1回しか行えません。(質疑回数が多い議員は準備に追われるため、ロビイングや地域活動に使える時間が減ります)

◆ロビイングを受け付ける

場に裏向きで並んでいる市民の声カードの、まだチップが置かれていない一枚を指定して、そこに自分のチップを置き、自分だけがそのカードを確認します。自発的に表にして、公開しても構いません(他プレイヤーとの交渉に利用できます)。市民の声カードには「要求」と、成功した場合に得られる点数が書かれています。右の場合であれば、予算案ボード上の「がっこう」カテゴリーにトークンとチップが合計3つ以上乗っていれば達成です。

もしくは場にある公約カードにチップを置き、その公約カードを入手しても構いません。チップはその場に置いておいて下さい。



◆議会質疑

予算ボードのいずれかのカテゴリに既に置かれている予算トークン一つ、予算ボードの上から取り除き、ボードの隣に置きます(チップは取り除けません)。代わりに、自分のチップを別のいずれかのカテゴリに一枚配置します。あるカテゴリの予算を削り、別のカテゴリの予算を増やすわけです。

■評価

全プレイヤーのアクションが終了した時点で、今年度の予算が決定します。
各カテゴリの「予算」は、「予算トークン」と「配置されたチップ」の合計で数えます。

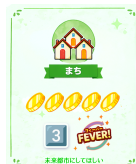
場の「市民の声」カードを、暫定順位1位のプレイヤーが1点カードから表向きにしていき1枚ずつ解決します。(1点カード全て→2点カード全て→3点カード全ての順に解決します。同じ点数のカードであれば、どれから解決しても構いません)
「市民の声」カードが求める条件が達成されていたなら、予算案ボード上の、そのカテゴリにチップを置いているすべてのプレイヤーが得点します(複数人いる場合は全員が同じ点数を得ます)。あなたの議会での活躍により、支持を獲得したのです。得点カウンターを得点トラック上で移動させて下さい。

また、達成された「市民の声」カードにチップを置いていた(ロビイングを受け付けていた)プレイヤーは、そのカテゴリにチップを置いていたかどうかにかかわらず、その「市民の声」カードを入手します。これはその議員が新たな支持者を得たことを示します(「支持者」カードとなります)。あなたは予算に直接的に介入しなかったかもしれませんが、それでも結果を出しました。あなたの根回しが評価されたのです。



例: 黄プレイヤーがロビイングを受けた市民の声は、「けいさつ」カテゴリに予算を4つ要求していました。予算ボード上では、「けいさつ」に予算トークンが1つ、そして、赤プレイヤーのチップが2枚と青プレイヤーのチップが1枚載っています。計4つの予算が配分されたので、この市民の声に応えられました。赤プレイヤーと青プレイヤーはそれぞれ3点ずつを得ます。黄プレイヤーは点数は得られませんが、この市民の声カードを「支持者カード」として入手します。(もし黄プレイヤーもチップを置いていたなら、3点とカードをどちらも得ていました)

これを場の全ての「市民の声」カードに対して行います。達成されなかった「市民の声」カード、もしくは達成されたけれど誰もロビイングをしなかったカードはただちに捨て札となります。カテゴリごとに分けて、場の隣の捨て札カード置き場に置いて下さい。
3点カードの中には「Feverカード」があります。これが達成された場合、そのカードのロビイングを受け付けていたプレイヤーは、その3点カードを入手することはもちろん、捨て札カード置き場にある同じカテゴリの「市民の声」カードを全て入手できます。困難な要望を達成したことであなたは一躍有名人となり、多くの支持者を獲得したのです。



■年度末実績チェック

評価の後、ラウンド終了時(年度末)にあなたの支持者たちが、あなたの今年の働きをチェックします。

予算案ボードを参照し、それぞれの支持者カードの要求に応えられているか確認します。要求に応えられていたなら、それぞれのカードの点数を得ます（あなたがそのカテゴリーにチップを置いていたかどうかは関係ありません）。しかし、その支持者カードの要求に応えられていなければ、その支持者カードは失われます。捨て札置き場へ移動して下さい。

※場の「市民の声」カードは全員の得点源であり、対して、支持者カードはあなた専用の得点源です。

■「紹介」と交渉

このゲームではプレイヤー間の交渉はいつでも自由に行えます。

交渉で何かが決まったら、お互いに「合意！」と言いましょ。」「合意！」して決まったことは守らねばなりません。

また、すべてのプレイヤーは、自分の所持する公約カード、支持者カードを他プレイヤーにいつでも渡すことができます。これは、自分の支持者に別の議員を紹介したりすることを表しています。現実の政治でも、議員同士が協力し合い、支持を広げることがあります。

（交渉例）

「『けいさつ』の支持者カードをあげるから、一緒に『けいさつ』にチップを置こう」

「『がっこう』の予算を減らさないなら、こっちも『まち』の予算は減らさないよ」

■ラウンド終了時

現在の支持点を参照して、暫定順位を変更します。暫定順位カードをプレイヤー間で交換して下さい。支持点が同点の場合は現在の順位の高低に従います。（例：現在の暫定順位1位と3位が同点で最低点の場合、現在の暫定順位1位が3位に、3位が4位になります）

各チップは各プレイヤーに返却します。

予算ボード上の「げんざい」に置かれたチップの数だけ、机の端に置いておいた余りの予算減収トークンをバッグに加えます（減税が行われた結果、翌年度からの税収が減る可能性が高まりました）。

後は、「■準備」の「毎ラウンド開始時の準備」以下を行って下さい。

■公約チェックと勝利判定

これを3ラウンド行います。

3ラウンド終了時に、まず25点に達していないプレイヤーが脱落します。改選で落選したのです。

25点以上の支持を得て当選したプレイヤーは、それぞれの持つ公約カードを全て表にします。条件を達成していたら、その追加点数を得ます。「いちばんおおい」などの条件は単独1位でなくても、同率1位でも達成可能です。

そして、最終的な点数で一番になったプレイヤーがトップ当選し、ゲームに勝利します。

■保護者の方へ

このゲームは、遊びながら地方政治の仕組みを体験的に理解できる知育ゲームです。

「税金はどう使われるのか」「なぜすべての要望を叶えられないのか」——こうしたテーマは大人でも説明が難しいものです。

本作では、市長が提案した予算案に対し、市議として市民の声をもとに予算を調整していくことで、

- ・政治家の役割と市民の声の届け方
- ・限られた予算の中での取捨選択
- ・利害の対立と協力、交渉と合意形成
- ・多数の意見をどうまとめるか

といった、「利害調整ゲーム」としての政治のニュアンスを体験できます。

このゲームは簡単に他プレイヤーの足を引っ張ることができますが、すると足を引っ張り返されて、お互い市民の声に応えられず落選しかねません。むしろ互いに協力していきましょう。「今回は教育に賛成するから、次は福祉を通してほしい」など、実際の政治でも多くの交渉（バーター）が行われています。プレイヤー同士でたくさん交渉しながら遊んでみて下さい。